

希望 のぞみ



ニュース

Vol.89 令和3年 2月号

(株)つつじヶ丘在宅総合センター
〒182-0006
調布市西つつじヶ丘2-19-6
第三コーポ横田 1F

☎ 03-5315-5722

2月

何で私はお正月を一人で迎えなければならないの… ～ 夫を亡くした妻の悲痛の訴え ～



『希望ニュース (85号)』で紹介した Aさんのケース

Aさん 79歳 は、心臓が悪く ペースメーカー埋め込み術を行い、数年になり、定期的に電池交換で数日入院していた。毎回 入院前には体力をつけるためにもリハビリを一生懸命行うほど 慎重な Aさんであった。

いつものように定期交換で入院し、電池交換は問題なく無事に済んだが、入院中に誤嚥性肺炎となり、症状が悪化した。主治医からは人工呼吸器を導入する話にまでなり、妻はなにが夫に起きたのか淡々と説明をする医師に動揺が隠せない状況であった。

新型コロナウイルスによる感染拡大防止として、夫に面会することすらできないことに妻は、病院へ悲痛の想いを訴え やっと面会を許されていた。

あれだけ元気だった夫が点滴やら酸素チューブ、尿の管と、管だらけになり、更に身体を抑制されて日々衰弱していく姿を目の当たりにする。Aさんは「早く家に帰りたい…」と、かすれた声で妻に訴えていた。

口からは わずかに食べれる程度で 1日 1,000ml の点滴を行うしか方法がなく、入院生活 100日後に退院し、『ケアホーム希望』の「泊まり」サービスを利用することになった。

帰宅に向け、42日間 体調を整え、143日ぶりに 自宅へ帰ることができた。その後も 唾液の垂れ込みがあり、誤嚥性肺炎をくり返して体力が低下、衰弱していった。Aさんは 12月18日に 79歳で天国へと旅立って逝った。

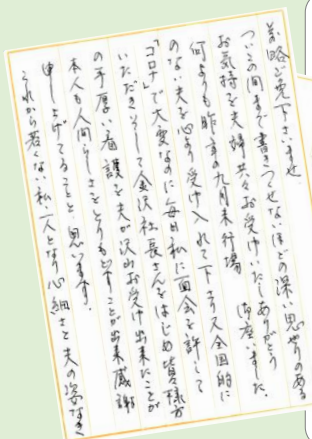
妻からは「退院して ケアホーム希望に来てからは 点滴を抜いてしまうからと言って 抑制されることもなく、職員や利用者さんから いつも声をかけられ、あの人らしい生活が 少なからずできていたと感謝しています」と言ってくれた。

年末から、夫と長年 暮らした家で一人ぼっちになり、なぜ 私は一人寂しくお正月を迎えなければならないのか。なんで 夫はこんなことになったのか。本当に悔しい…の 言葉しか残らず、毎日 寂しく、そして悲しい想いをしている。夫の 悔しさをどこにぶつければよいのだろうか…?



Aさんの 奥様からのお手紙 (一部抜粋)

ついこの間まで書きつくせないほどの深い思いやりのある お気持ちを夫婦ともどもお受けいたしありがとうございます御座いました。何よりも行き場のない夫を心より受け入れてくださり、また全国的にコロナで大変なときに毎日 私に面会を許していただき、夫は 手厚い看護をお受けできたことで 人間らしさをとりもどすことが出来、感謝していることと 思います。これから 夫のなき姿、声をさがす 数年との 戦いとなるでしょうが、自分が大変になったとき、また 皆様に助けを 求めることと 思います。ご迷惑でもよろしくお願い申し上げます。



今年の恵方は...



もっとちょうだい!



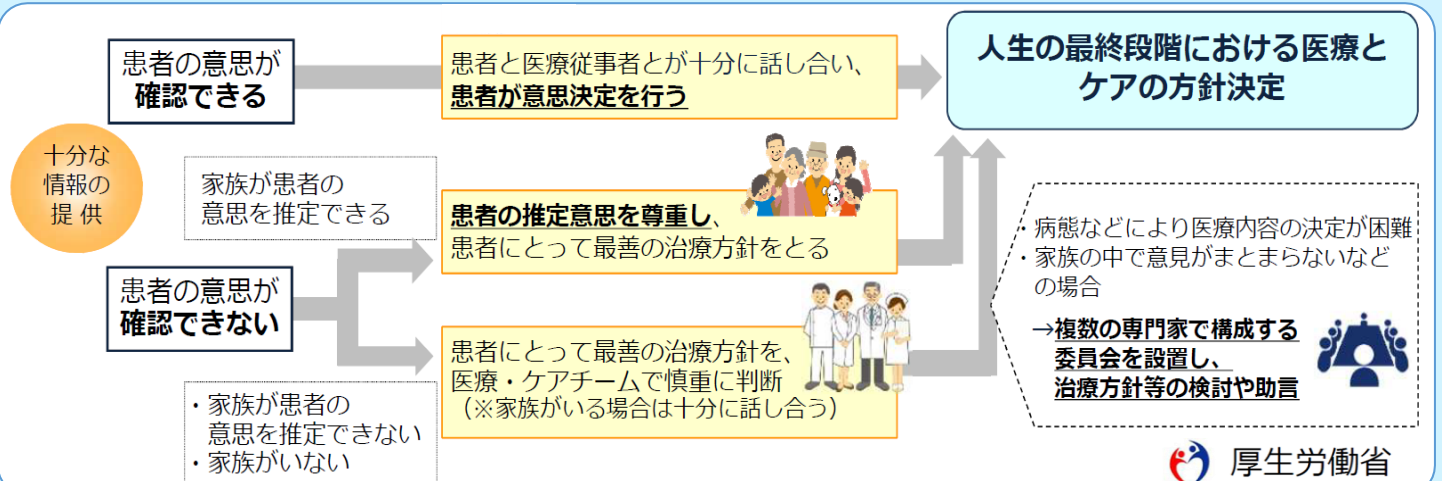
私たち 大正生まれ組は そんなにたくさん食べられないわね...



今年の豆まきは密を避け外に向かって豆をまきました

人生の最終段階における医療とケアの話し合いの重要性...

最期まで本人の生き方 (= 人生) を尊重し、医療・ケアの提供について検討することが重要であることから「終末期医療」から ➡ 「人生の最終段階における医療」に名称が変わります。



厚生労働省

本人の意思は変化しうるものであり、医療・ケア方針についての話し合いは繰り返すことが重要です。病院だけでなく在宅も想定し、尊厳を追求し自分らしく最期まで生き、より良い最期を迎えるための医療・ケアをしていくため、できる限り早期から肉体的な苦痛緩和をするためのケアが行われることが重要です。医療・ケア行為の開始や内容、その行為の中止等については、本人の意思を確認することが最も重要で、本人の意思が明確でない場合には家族の役割がますます重要になります。本人の意思を推定する者を前もって定め、本人が何を望むか話し合っておくことが重要です。改めて各ご家庭でもご本人と一緒に家族間で話し合いの場を設けてみてはいかがでしょうか。